

去年から話題になっていた私達盲人のバスレクも本年に入り希望者全員が、この春には関係各位のご理解により週一回、四回に別れて岡山方面に行く事が出来ました。

私達女性五名は三回目、五月二十日、賛助員、事務所員、職員、補導員合せて十名が、虫明を十時に出発した。

ポロポロしていた雨はいつの間にか晴れ、涼しい風が車内に流れ、久し振りに味わうバスレクには好都合の日和でした。シユンシユンと行き違う車の音を聞きながら、ピユンと飛び上がるデコボコ道にワツと云う歓声が沸き起り、まだまだ道が悪いですよと云われる職員の方、又、事務所の方から事の説明をしていたきながら、野を越え、村を越えて、走り続けるさまは、とても園においては味わえないものがありました。このまま家に帰れたらなあーとおっしゃるAさんの言葉に今迄忘れていた故郷の事が想い出されて騒がしい街の様子を聞く度に一層なつかしく、ふと気がついてみると、悪いデコボコ道も何時の間にかなめらかな国道を走り続けていました。遠くから汽笛の音、「ここは赤穂線ですよ。今ガードを汽車が通りますから」と運転手さんの言葉に車はしばらく停車した。すると間もなくすさまじくゴウ音を立てながら走って来る汽車は、アツと云う間に通過した。

想い出せば入所してから十幾年間、一度も帰省しなかった私はこれが初めての岡山行きでした。晴眼者の方から盲人のバスレクについては色々批判もされる人もありましたが、同じ病にかかりながらも手を病む人、足を病む人、眼を病む者、その眼を病む盲人だけが行けなくて、昨年も話題に上ったバスレクだけあって、この事が実現した事は私達にとってまことに大いなる喜びでありました。これも園当局並びに自治会関係各位のご理解によるものと思っています。

現在軽症者の方でも手足のいい方は社会復帰を目指しつつある今日、療養所に一生余生を送る人は身体障害者ではないでしょうか。この身体障害者の中でも最高と思われる盲人が楽しい生活をしてこそ、明るい療養所ではないでしょうか。ハンセン氏病予防法も改正されつつある今日、又、社会においてもBCGの注射で予防出来る現在、療養所に生涯を送る身体障害者の看護も現在では軽症者で行われていますが、この看護も年と共に職員に切り替えつつある時、私達盲人が明るい療養生活を送る事が出来ますよう皆様方のご理解あるご協力をねがう次第であります。

(昭和三十七年十二月)